

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏名	Y.N	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学年	2年	派遣国	アメリカ
派遣大学	サンディエゴ州立大学		
プログラム名	Intensive English for Communication		
期間	2023年 7月 13日～ 2023年 8月 13日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は、平日月曜日から木曜日までであった。1～3限で午前9時に開始し、午後14時15分に終わる。月曜日と水曜日は、①アメリカ文化②リスニング&スピーキング③ライティング、火曜日と木曜日は、①コミュニケーション練習②文法③リーディングの授業があり、それぞれ担当の先生が教えてくれる。どの先生もとてもフレンドリーで明るく、親切に教えてくれた。廊下や学校内のスタバなどですれ違うと、すぐ声をかけに来てくれ、お話できてうれしかった。お昼休憩の時間に先生に直接質問できる「質問ルーム」のようなものもあり、気軽に質問しに行くことができるので英語の勉強を楽しく、かつ効率的にできる環境が整っていると感じた。課題はどの授業でもほぼ毎回出ていたが、量は適度で頑張れば授業と授業の間の休憩時間で終わらせたりできたので、放課後はサンディエゴの有名な場所に遊びに行ったり、学内の施設を探検したりし、勉強と遊びのバランスをうまく取れる程度の量と難易度であった。プログラムの真ん中と最後あたりにテストやプレゼンテーションも何度かあったが、土日はロサンゼルスや少し離れたレジャー施設に遊びに行ったりしたかったので、平日の隙間時間に友達と一緒に頑張って終わらせるようにしていた。せっかくアメリカに行くなら、ただ英語を勉強するだけでなく、そこでしかできない体験もするべきであるので、その両立ができる授業や課題、演習でとても良かったし、ありがたかった。普段はレベル分けされたクラスで授業を受けるが、金曜日はクラス関係なく全員でアクティビティを行う日だった。午前9時から午前12時までであり、お出かけしたり、グループをその場で組んで話し合いやプレゼンテーション発表をしたりする。やることはその週によって様々であったが、その中でも私が一番印象に残っている授業は、全員でサンディエゴのダウンタウンまで行き、「Comic-Con」をみたことである。これはコミックブックやその文化に焦点を当てたイベントで、ファンが仮装したりして互いに交流するイベントである。サンディエゴで行われるコミコンは世界最大のもので、かなり盛り上がっていて面白かった。学校側は、ただ英語を教えるだけでなく、楽しいアクティビティや英語のモチベーションが高まるようなことを沢山提供してくれてとても良かった。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500字程度)

私にとって、ネイティブが使うボキャブラリーや言い回しを沢山知ることができたのがとても大きかった。渡航する前は、教科書に載っている言い回しや表現、ボキャブラリーしか知らなかったのをそれを当たり前に使っていたけれど、授業でもっと日常的に使える単語や友達間で使える砕けた表現を知れて面白かったし、ためになった。授業で学んだ表現を学校内で先生や友達に使ったり、家に帰ってからホストファミリーとの会話で使ってみたり、試す場面が多くあった点も良かった。また、リスニング&スピーキングの授業でよく映画を見たが、映画は英語の勉強にかなりいいと感じた。今まで英語で映画を見たりしてこなかったので、初めて授業で見てみて、普段英語圏の人がどのように相手の会話に反応しているか、学生同士の会話の様子、店員さんとのやり取りなど、英語で映画をみるということは聞き取りの訓練になるのもそうだが、ただそれだけでなく様々なシチュエーションでの英会話を第三者目線で学べる点がとても良いなと気づいた。どのような観点で見たらいいか等は授業で教えてもらったので、日本で自分が英語を勉強する際に取り入れていきたいと思った。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように(気持ちなどが)変化したか。(400字程度)

授業を受ける前は、海外経験もなく自分の英語力がどのくらいなのかよくわかっていなかったで自信が持てずにいた。アメリカに渡航し、授業を受ける中で自分の英語力を試す機会が沢山持てたことで、しだいに「自分の英語がちゃんと伝わる」という自信が生まれ、授業で発言したり、先生と会話するのが楽しくなった。また、元々積極的に話しかけるのがそれほど得意ではなかったが、アメリカに来たからには頑張って英語を使って話しかけてみようと思い、授業で一緒になった人に声をかけるように心がけたら、それに慣れてストレスなく英語で質問することが出来るようになった。授業を通して「実際に英語を使う楽しさ」を初めて知り、もっと英語を上手に話せるようになりたいという気持ちが更に高まった。加えて、今まで「発音」をあまり気にしてこなかったが、私が話したことが英語圏の人に伝わらなかった際の一番の原因は発音だと気付いたので、日本で発音を磨いてもう一回チャレンジしに行きたいと強く感じた。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300字程度)

大学での授業、ホストファミリーとの交流、現地の人とのコミュニケーションから「英語を話す楽しさ」を知ることができた。しかし、思ったことを上手く表現出来ずに妥協した言い方をしてしまった場面も沢山あったので、今後は「自分の思ったことをそのまま上手く英語で表現できるようになる」ということを目標に、ただ TOEIC の高得点を追い求めるのではなく、英語を実際に使えるように、英会話にもフォーカスした勉強をしていきたいと思う。また、映画を見るのは個人的な趣味なので、娯楽として映画を英語で見るということをしていきたい。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏名	T.D	学部・学科	国際商学部国際商学科
学年	2年	派遣国	アメリカ合衆国
派遣大学	サンディエゴ州立大学		
プログラム名	Intensive English for Communication		
期間	2023年 6月 30日～ 2023年 8月 11日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業はリーディング、リスニング&スピーキング、ライティング、コミュニケーション、文法、アメリカの文化、イングリッシュアクションという7つの授業に分かれていました。リーディングの授業では二つの物語を文法や文章を書いたりする作業のもと進めていく形でした。何回か単語の小テストもあり、難易度としては知っている単語もあれば知らない単語もあったので感覚としてはちょうどよかったです。最後にはペアと協力して漫画を作り発表するという課題もありました。リスニング&スピーキングの授業では、一つの映画を通して授業を進めていく形でした。映画を何個かのセクションに分けて、そこで話されていた内容に関する質問に回答するなどの形で授業は進んでいました。この授業も時々小テストがありました。ライティングの授業は何個かの手順を踏んで最終的なエッセイを完成させるというものでした。先生が添削をしてくれたので自分がどこが間違っているかなど分かりやすかったです。コミュニケーションの授業では、何個かプレゼンがあったり、簡単なコミュニケーションを先生と一対一でとったりなど課題に準備がかかる授業でした。アメリカの文化を学ぶ授業では、テーブルマナーやアメリカの著名人などたくさんアメリカに触れることができおもしろかったです。文法の授業では、現在完了を学びました。内容としてはとても簡単なものでした。私が一番印象に残っている授業はイングリッシュアクションという授業で、この授業はクラスの垣根を越えて、様々な外国人と協力してあるミッションをやり遂げるというような授業でした。この授業で、私はほかの国の友達を作ることができ、またサンディエゴのダウンタウンに行ったり、コミコンという漫画のイベントにも参加したので、街をすることができ、かつ友達も作ることができるような授業だったので私はこの授業が一番印象に残っています。課題は簡単なもので、課題をやることに対して、いやになるといったことはありませんでした。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500字程度)

授業を通して四技能に関する知識がつかえました。文法の授業は中学校の復習のような形でした。リーディングでは文章を早く正確に読むような力を、物語を通して学ぶことができました。物語を進めながら、新しい単語を知ることができたので、とても頭に入りやすかった印象が残っています。リスニング&スピーキングの授業では映画を通して、ネイティブスピーカーの話す速さを体感することができたので、耳を慣れさせることができた印象が強かったです。身についた知識としては、映画の内容から教養的なことも、人としての温かさなども学ぶことができました。ペアとのコミュニケーションもとることができたのでスピーキング力もつけることができました。ライティングの授業ではライティングの基礎事項、文章の書き方などの知識がつかえました。文章で一番強調したい意見は最後に持ってくるなど、これから役に立ちそうな知識を身につけることができました。どの授業の中でも、あたらしく学ぶ単語はあったので、単語の面でも知識はつかえました。アメリカの文化を学ぶような授業では、テーブルマナーやアメリカ出身の著名人などを学ぶことができたので、アメリカについての知識が増えました。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように(気持ちなどが)変化したか。(400字程度)

授業を受ける前は、外国人がどのくらいいるのか、自分のスピーキング力で大丈夫なのかなど、様々な不安がありました。しかし、授業を受けた後は、その不安はなくなっていました。実際クラスに行ってみて、ほとんどが日本人だったので、外国人と話す機会は少なかったのですが、外国人と話すときは言いたいことを言わないと意思疎通ができないので、簡単な英語でも伝えることが大切だと感じました。話さないとも伝わらないのでその重要性を体感しました。また、周りのことを気にして発言しないようにしていましたが、授業中では積極的に発言するように心がけていました。周りを気にするようなことは必要ないと授業を受けていく中で感じました。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300字程度)

今後の学習には、大学の授業中においてなど、発言や気になることがあったら、臆せずにとんどん質問していきたいと思いました。また、グループワークなどの場面も大学の授業やゼミが増えてくると思うので、そこでも何も話さずに終わるのではなく、当たり前ですが自分の伝えたいことをしっかりと伝えていき、自分の考える良いリーダーシップをとっていきたいとも考えました。アメリカの授業内で、あるアメリカに住んでいる経験が長い子(日本と韓国のハーフ)が、アメリカは言ったもの勝ちだよと教えてくれたので、その精神を日本でも活かして残りの大学生活を過ごしていきたいと考えました。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏名	M.N	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学年	2年	派遣国	アメリカ
派遣大学	サンディエゴ州立大学		
プログラム名	Intensive English for Communication		
期間	2023年 6月29日～ 2023年 8月13日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

スピーキング、リスニング、ライティング、リーディング、文法、コミュニケーションスキルを養うための授業が開講された。内容は以下の通り。

○アメリカ文化 クラス

・アメリカ文化に関する文章を扱う。(アメリカ人の家族構成における歴史、アメリカンスポーツにおける格差問題について)

・3～4人のグループで協力して内容把握や単語の定義づけをする。

・課題は授業中のワークの残りや発音のレコーディングがある。

・アメリカ人スポーツ選手を紹介するプレゼンを行った。

○スピーキング&リスニング クラス

・主にTED Talkを題材にしてリスニング力を養う。(Chat GPTは学習に有効か、ストーリーテリング) 動画のトピックをディスカッションテーマとして意見をクラスメイトと共有する。

・AIに関するプレゼン、最近の面白かったこと・驚いたことに関するストーリーテリングを実技として行った。

○ライティング クラス

・様々な状況を説明するための語彙力や表現力を養う。(名詞・動詞・形容詞・副詞・接続詞・文構成)

・自身の地元に関するエッセイを作成した。添削のポイントを学んだうえでクラスメイトの下書きを校閲した。

○コミュニケーション実習 クラス

・プロジェクターで投影された画像や配布された写真の内容をペアやグループで共有するワークを行った。

・「自身の良い健康状態を保ち続けるために」というトピックでプレゼンを行った。

○文法 クラス

・テキストを使用しながら現在完了形・受動態を学習した。

・復習問題をオンラインで提出する宿題が毎回課された。

○リーディング クラス

・文章を読んで内容理解の問題に取り組む。内容に関連したディスカッショントピックをペアやグループで話し合う。

・テストでは授業内で扱った語彙を扱う。

○アクティビティ クラス

・全学生がレベル問わず合同参加する。学内外での活動を通して交流しながら学ぶ。(Targetで疑似買い物、室内・野外ゲーム、コミコン参加、世界の食事、プレゼン)

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500字程度)

○アメリカ文化 クラス

主に二つの異なるアメリカ文化のトピックを学び、総じて格差や不平等であることへの危機意識の高さを知ることができた。アメリカンスポーツにおける男女平等・国籍平等・オーナーとファンの金銭面での平等を求める等、あらゆる側面での格差がピックアップされていた。

○スピーキング&リスニング クラス

より聴衆の興味を引く話し方や書き言葉と話し言葉で使用する語彙の違いを学んだ。

Ex. Eye contact, Body language/I say 〈ask/talk〉 ~⇔I'm like~

○ライティング クラス

読者にとって読みやすい文章の構成を学んだ。また、様々な品詞における語彙のレパートリーを増やすことができた。

Ex. Intro→Body→Conclusion

○コミュニケーション実習 クラス

感覚を表す語法や位置を示す言い方を学んだ。

Ex. It looks like~/ at the top of~

○文法 クラス

主語や目的語の変化に応じて動詞の形をどのように変えればよいか知ることができた。

Ex. Someone stole my bike. → My bike was stolen.

○リーディング クラス

文章に登場した語彙の利用方法を知り、表現の幅を広げることができた。

Ex. Having shoulder to cry on = they support others who have problems

○アクティビティ クラス

サンディエゴで有名な施設や各国の文化を知ることができた。

Ex.有名ディスカウントストア Target の歴史、サウジアラビアの食文化など

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400字程度)

はじめは他国の留学生が積極的に授業を受ける様子に驚いた。しかし、徐々に自身も間違いを恐れず発言するように心がけたところ、授業内でのコミュニケーションが生まれ、理解がさらに深まるようになった。なにより、受け身の授業の何倍も楽しむことができたように感じる。

また、各授業で文章や動画などの資料を扱う機会が多くあり、授業を受ける前はそれらを単なる英語教材と捉えて課題に取り組んでいた。しかし授業を終えるころには、それらが世間を知るためのツールとして考えていた。つまり、勉強としての英語からコミュニケーションツールとしての英語に意識が変わっていったのだと考える。このことは、日本で英語を学び続ける私にとって大きなモチベーションになると確信している。

総じて、最初は勉強することに対して独りで取り組むものだという意識があったが、サンディエゴでの授業を通して実践的に他者とかわりながら学ぶことの重要性を知ることができた。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300字程度)

可能な限り実践的な学習を継続させようと考えている。特に英語学習においてはコミュニティを探して英会話に参加するなどして、機会を自ら見つけていきたい。具体的には、大学で開催されるP E Cや日本語の授業ボランティア等が挙げられる。

また、ホームステイファミリーや外国に住む友達と連絡を取り続けることで「使う英語」の素晴らしさを忘れないでいたいと強く感じる。とりわけサンディエゴで出会った友達の勉強熱心な様子は、英語学習に限らない私の学びにおける向上心を高めてくれる。したがって、彼らと再会することを想定して学業を進めることで、より豊かに学びを深めることができると確信している。